

2019 年（平成 31 年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2019 年（暦年）段ボール需要予測 14,600 百万㎡ 前年比 101.3%

2018 年の国内経済は、7-9 月期は自然災害という一時的な影響でマイナス成長となったが、景気回復の動きは維持されており 10-12 月期は反動から高めのプラス成長が見込まれている。民間調査機関による直近の予測では 2018 年度実質 GDP 伸長率は概ね 1% 程度となっている。

2018 年の段ボール需要は堅調なペースで推移し、1-9 月累計で前年比 100.9% となり、1-12 月累計では、2017 年 12 月に全段連が公表した予測前年比 101.2% を上回る 144 億 1,500 万㎡（前年比 101.5%）程度となる見込みである。

2019 年度の国内経済は、10 月に予定されている消費税増税後の個人消費の落ち込みは避けられないが、税率の引き上げ幅が小幅であり、翌年に東京オリンピック・パラリンピックが控えていることもあり、景気後退局面入りは回避されると見られている。民間調査機関による実質 GDP 成長率予測は概ねプラス 0.8% 程度となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して 2019 年（暦年）の段ボール需要を 14,600 百万㎡（前年比 101.3%）と予測した。

期間別内訳は、1 - 3 月 101.1%、4 - 9 月 101.9%、10 - 12 月 100.3% と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比 41%）は、新製品投入による需要喚起、核家族化、個食化による冷凍食品等の中食需要増や訪日外国人による需要増も引き続き見込まれ、1.5% 程度の伸びと予測。

「その他」（構成比 17%）は、情報用紙等はペーパーレス化進展で減となるが、衛生用品は高齢者向けやインバウンド需要で好調、ペット関連商品も堅調で 1% 程度前年を上回ると予測。

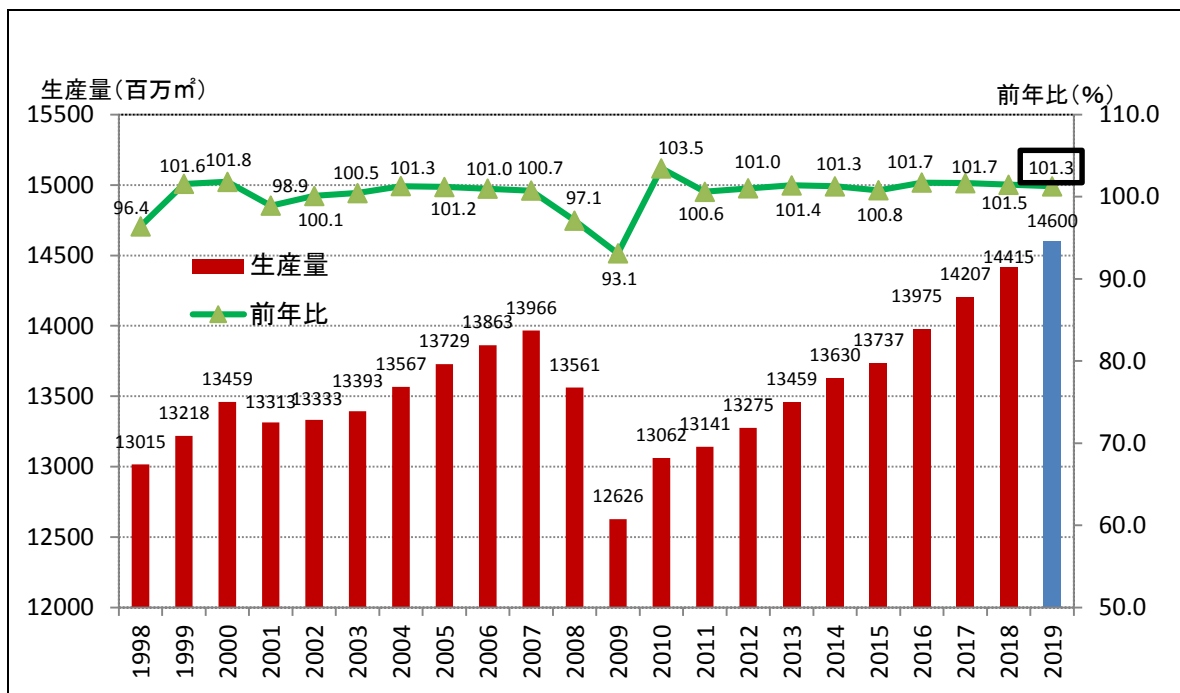
「青果物用」（構成比 10%）は、生産者の高齢化、人口減など構造的なマイナス要因があるが、2018 年は自然災害により減少しており、その反動による増が見込まれる。天候が平年並みという前提で 0.5% 程度増えると予測。

「電気器具・機械器具用」（構成比 8%）は、4K・8K 放送開始による関連商品増が期待でき、白物家電も好調で 1% 程度前年を上回ると予測。

「通販・宅配・引越し用」（構成比 5%）は引き続き好調だが、包装材の簡易化により伸びは若干鈍化すると予想し 4%程度の増と予測。

以上

段ボール生産量推移



※2018年の10月は速報値、11月、12月は見込値。2019年は予測値。